

予習は何のために、どのようにするのかを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 学校や塾の先生方から、「勉強がよくできるようになりたかったら予習と復習をきちんとすること」と言われることがあるかも知れません。
- (2) 高校や大学、大学院、留学と、どんどん勉強が進めば進むほど、「予習の大切さ」は増していきます。もしかしたら、社会に出てからの勉強には、最も予習が必要だというのが私の意見です。
- (3) 「どうしてかな」と思われる方もいると思うので、今回は「予習は何のためにどのようにするのか」を考えてみましょう。

2. 予習は、分からないところをはっきりさせて授業に臨むためにするもの

- (1) 予習は何のためにするのか。私は、分からないところをはっきりさせて授業に臨むために予習が必要なのだと考えます。
- (2) 「分からないところをはっきりさせて授業に臨むためにするのが予習だ」とすれば、予習はどのようにしたらよいのでしょうか。
まずは、教科書や与えられた教材で今週から来週にかけて授業でやりそうなところを、徹底的に読み込むことをおすすめします。
次に読んでいて分からないところがあれば、辞書や教科書を使い徹底的に調べること。練習問題があれば、教材に書いてある説明だけを参考にして、ノートに解いてみることをおすすめします。
そして、読んでいてよくわからないことや、問題を解いていてよく解けないところがあったら、自分なりの「わからないマーク」をつけておくこと。
もしできれば、よく調べたり考えてもわからなければ友だちとディスカッションしてみることもおすすめします。このようにして、「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むこと」を私はおすすめします。

- (3) 「よくわからないことを明らかにしてから授業に臨む」ということは、「強い問題意識をもって授業に臨むこと」を意味します。だから、この方法で予習すると、授業の取り組みが熱心になり、先生のおっしゃることを一言も聴きもらすまいという授業態度になります。

- (4) 授業を聴いてもわからなければ、もう一度家に帰り静かに深く考えたり調べ直して見て下さい。

それでもわからなければ、職員室に先生を訪ね、個人的に教えを受けると、素晴らしい勉強ができます。

3. おわりに

(1)勉強は「やり方」が大事です。「塾生一人一人が自分なりの勉強方法を身につけてもらいたい」との願いのもとに、「自己学習能力（自学力）の育成」を開倫塾では教育目標にかかげ、全職員が一丸となって取り組んでいます。

(2)塾生の皆さんも、難しいかも知れませんが、自分なりの「予習」の意味を発見し、自分なりの「予習の方法」を身につけるよう心から希望します。